

前年度の学校評価

自己評価結果

昨年度の 重点目標	全教職員が多種、多様な情報を共有するとともに、協働し、生徒の指導にあたることのできる体制作りを推進する。 教職員が範を示し、一丸となって、地域から愛される工業高校としての誇りを持った教育活動を推進する。 主体的な学びにより工業の専門知識・技術・技能を身につけた上で、次世代社会の担い手となるよう、心豊かで、崇高な倫理観を備える工業人を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
PTA活動 (総務部)	PTA活動をととして、本校の教育活動の更なる向上を目指す。	PTA行事等に多くの保護者の参加を促し、学校に対する御意見・御要望を集約し、改善を模索する。また、各種行事が魅力あるものになるよう工夫し、保護者が参加しやすい環境の構築を図る。	PTA役員・委員とのコミュニケーションを密に取り、開かれたPTA組織になるような雰囲気を構築した。また、多様な意見にも耳を傾け、より保護者との関係が強固になるように努めた。 近年、PTAのあり方や行事などの見直しの必要性が浮き彫りになってきているため、内容を精選し、保護者・生徒・教職員の3者にとって、より良い形になるようにしていきたい。
学習指導 (教務部)	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たるとともに、学ぶことの楽しさや達成感を体得させ、自ら学び続ける意欲や態度を養う。	年度当初において「わかる授業のための調査」を生徒に対して実施し、わかる授業の実践に心がける。	各科目担任が「わかる授業」を心がけることができた。また、他教員の授業参観や研究授業等の研修に参加し、授業改善に努めた。
生活指導 (生徒指導部)	生徒の生活リズムを整える指導を継続的に実施し、遅刻の減少を図る。	複数回遅刻をする生徒に対して、早朝登校や保護者連絡などの継続的な指導を実施し、生活習慣の見直しを促す。	複数回遅刻をする生徒に対して、継続的な指導を行った。改善の成果が見受けられない生徒に対しては、家庭と連絡をとり、協力を求めることもあった。また、担任と情報を共有することで、生徒の状況に合った指導を行った。 年々遅刻数は増加する傾向がみられる中で、今後の対応方法には課題が残った。
特別活動 (生徒会部)	本校生徒の魅力や活力が、地域や中学生に伝わるよう公式WebサイトやSNSの活用を進める。 ボランティア活動の機会を設定することで、ボランティア精神を育む。	SNSの掲載内容について①学校行事の写真、様子、生徒の活動等を紹介する。②部活動の試合結果、日々の活動などを随時更新する。 本校主催のボランティア活動においては、活動中の安全確保のため監視員の配置やグループ活動で実施する。	体育祭、文化祭など学校行事の様子をX(旧Twitter)に掲載した。今後は部活動の活動の様子や大会などの写真も掲載できるようにしたい。 ボランティア活動であるグリーンプロジェクトは、年間3回で総勢700名以上の生徒が参加し、事故なく安全に実施することができた。
進路指導 (進路指導部)	進路行事を通して、進路意識を高め、生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。 求人票公開や集計処理等の業務の改善を図る。	学年との連携を密にし、進路に関する情報を迅速に提供し共有する。 求人票受付処理、公開方法を検討する。	学年との連携を密にすることや求人票公開システムの導入により、来校企業の情報や求人票の公開は、迅速に提供することができた。2年生の進学希望者に対して、説明会を複数回実施し、進学についての必要な知識や今後の予定等の情報提供を充実させた。 キャリア教育を念頭に置き、1年次より継続した進路指導が実践できるよう検討していきたい。
保健・美化 (保健部・相談)	心身ともに健康な生徒の育成を図る。	生徒保健委員会、生徒美化委員会の年間を通した積極的な活動。 相談活動や支援を必要とする生徒への適切な対応と校内連携を実施。	保健委員、美化委員ともに与えられたそれぞれの仕事をきちんと行うことができた。SC・SSWを活用し、学校生活によりよく適応していけるように支援することができた。
図書館活動 (図書部・ICT教育)	図書館の活性化	図書委員による自発的な活動を促し、生徒主体の魅力ある図書館作りを目指す。	図書委員の生徒たちが、日頃のカウンター当番をしっかり務めてくれ、図書館運営に協力してくれた。文化祭や図書館まつりなどの図書館行事にも協力的で、蔵書整理も積極的に手伝ってくれた。先生方にも、おすすめ本を数多く推薦していただき、図書館の活性化に協力していただいた。
工業教育に関する活動 (工務部)	学科との連携を図り、進路実現や資格取得など生徒に具体的な目標を持たせる。技術顕彰やジュニアマイスターの取得者数などの向上を図るための指導体制を充実させる。	検定試験や資格の告知、掲示の仕方を工夫し、多くの生徒に周知する。 技術顕彰やジュニアマイスターについてわかりやすく案内を掲示する。	資格取得等に挑戦したい生徒は多くいるので、教員側のアシストによって難易度の低い資格から順次挑戦でき、合格に導けるような体制づくりを目標にしたい。学科や学年会との連携協力が必要で、これを模索したい。この体制が整えばジュニアマイスター取得への道が開けると思われる。

(機械科)	機械科としての知識や技能の確実な定着を目指して指導に当たるとともに、機械加工における安全教育を充実させた実習運営	機械に関する専門的な知識や技能を身につけさせるために授業展開を工夫する。また、各実習において、不安全行動を説明し、事故を防ぐ。	安全に留意し、実習を行うことができ、重大事故等もなく実習運営を行うことができた。校内行事だけでなく、地域のイベント等にも参加し、外部に向けても学校・学科の魅力を発信することができた。 来年度以降も継続して、学校や学科の宣伝を行っていきたい。
(電気科)	知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たる。また、安全教育の充実、実習室の整備を意識して実習の指導を行う。	それぞれの教科に合わせた指導方法の研究を行い、実践する。また、日常における実習室の環境整備、それぞれの実習において危険予測と安全作業の指導を行う。	実習器具の点検、使わなくなった器具の破棄を行うことができた。また、工場見学を通じて、安全に対する意識の向上、進路指導を行おうことができた。来年度も引き続き行っていきたい。 実習内容の精査を今後も続けて、時代のニーズに応じた実習を行っていきたい。
(IT工学科)	IT工学の知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たる。	学年、学科と連携を図りながら、生徒指導、学習指導に取り組む。資格取得等を促し、主体的に取り組む姿勢を養う。学科紹介、学校見学会、HPなどを通して、学科の情報を発信する。	昨年度に引き続き、学年、他学科と協力し、生徒指導、学習指導に取り組めた。また、学科紹介、見学会、文化祭展示、競技会の参加やHPでの情報発信を行えた。 今後も協力関係を構築し、指導体制の改善を図りながら、IT工学科の魅力発信を継続したい。 学習指導に当たり、限られた場所においての実習展開に苦慮した。
(エネルギーシステム科)	基本的生活習慣の確立と進路実現に向け、生徒自身が主体性に取り組むように支援する。また、生徒の目標に合わせた資格を取らせる。	学習指導の充実や提出物指導を徹底する。授業を通じてより多くの教員と関わりを持たせ、多くの目と手で生徒の成長を目指し指導していく。	基本的生活習慣をおおむね確立させることができた。学習指導や資格指導を通して生徒の進路に即した資格を取得するように指導することができた。 今後は、学科の特色がでるように学習指導や校外行事に参加していきたい、愛知県で唯一無二の学科としていきたい。
(エネルギー化学科)	安全教育の充実と工業化学の基礎基本の知識技術ならびに、エネルギー分野の基礎基本の知識技術を身につけ、工業人として社会に貢献できる人材育成を目指す。	日々のあいさつや身だしなみから規範意識を持たせる。 資格指導や日々のレポートなど、期日までに目標を達成する能力を育成。	工業高校生として、進路を意識できるよう指導を行ってきた。一部欠席などが気になる生徒はいたが、2年、3年を見てみると昨年より減少している。 また、進路にかかわる部分で取得資格があるが、取得予定の指導だけでなく、どんな資格があるのか興味関心を抱かせる指導も今後していきたい。
学年経営 (第1学年)	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を念頭に指導を行う。また高校生活を通して目標を見つけ、その達成に向けて努力する姿勢を養う。	教員側から行動で示して模範となる。学習面のみでなく資格取得や部活動など様々な方面から生徒を見守り、必要に応じて適切な指導を行う。	高校生としての自覚を持ち行動することができる生徒が少しずつ増えてきたようにも感じるが、中学生の気分が抜けず物事に前向きに取り組むことができない生徒が各クラスに若干名いる状況である。担任副担任に限定することなく学校全体で指導していく姿勢を示し続けることが必要であると感じる。
学年経営 (第2学年)	学習や資格取得に積極的に取り組む姿勢と、進路実現における自己理解と他者との協働を主体的に取り組む姿勢をサポートする。	各分掌と協力して生徒に情報提供を行う。修学旅行やインターンシップなどの学校行事を有意義なものになるようにする。	欠席や遅刻が多く、学校生活を前向きに取り組むことができない生徒が若干名いる状況である。学校全体で指導していく姿勢を示し続けることが必要であると感じる。また、進路実現に向けて、規範意識を高め、社会に貢献できる資質の育成を心がけたい。
学年経営 (第3学年)	進路実現や資格取得に向けて、自ら積極的に学習する態度の育成と学習習慣の確立、集団生活における自己の主体性と協調性の育成を目指す。	常に社会へ出ることを意識して行動や発言をするように指導する。 進路実現に向けて、自分から行動させる。 (企業や学校研究・履歴書・面接等)	2年生から持ち上がりのクラスが多く、教員やクラスメイトとの人間関係において、トラブルが少なくなり、落ち着いた学校生活を送れるようになった。 進路実現においては求人状況にも恵まれ、多くの生徒が希望の企業から内定をもらうことができた。このことを通して、社会人を意識した行動をとれるようになった。
総合評価	全教職員が多様、多様な情報を共有するとともに、協働し、生徒の指導にあたり、モラル・マナー・エチケットが身についた。その結果、生徒の安全・安心な学校生活にもつながることとなった。また、地域のイベント等に生徒が参加し、外部に向けて学校・学科の魅力を発信することができ、生徒が成長することができた。今後も各分掌、各学科において指導を継続するとともに、課題の発見に努める。		